

メッセージ通信処理装置 (MHS)

1985 年（昭和 60）、KDD は 81 年から標準化が開始した CCITT 勧告に準拠するメッセージ通信処理システム、MHS（Message Handling System）を開発した。開発の主な目標として、①MHS 勧告準拠、②マルチメディアメッセージ処理、③OSI プロトコルの採用、④ファイルの大容量化、⑤システムのリモート制御、⑥商用システムへの適用の 6 条件を設定した。

開発対象設備は、①メッセージ通信処理装置 (MHS)、②ファクシミリ端末パケット集線装置 (FPAD)、③メッセージ制御端末 (M-CONT)、④メッセージシステム試験装置 (MTEST) の 4 種に大別される。CCITT の MHS 勧告に準拠した相互接続プロトコルを収容したことで、諸外国のメッセージ通信システムとの相互接続を共通のプロトコルで容易に行えるようになった。

出典：KDD 社史